

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポに一服感がみられる」

| 項目 | 前回（4年1月判断） | 今回（4年4月判断） | 前回比較 |
|------|--|--|------|
| 総括判断 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポに一服感がみられる | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポに一服感がみられる | → |

（注）4年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売額は巣ごもり需要などから引き続き食料品は堅調に推移しているほか、コンビニエンスストア販売額は前年を上回っているものの、ドラッグストア販売額、新車及び中古車販売台数は、前年を下回っており、感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。観光は、感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる。雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっている。

【各項目の判断】

| 項目 | 前回（4年1月判断） | 今回（4年4月判断） | 前回比較 |
|----|------------|------------|------|
|----|------------|------------|------|

| | | | |
|------|---|--|---|
| 個人消費 | 感染症の急拡大の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている | 感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている | → |
| 観光 | 厳しい状況にあるなか、改善の動きがみられるものの、感染症の急拡大の影響により、弱まっている | 感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる | ↗ |
| 雇用情勢 | 感染症の影響により、弱い動きとなっている | 感染症の影響により、弱い動きとなっている | → |

| | | | |
|--------|-------------------|------------------------|---|
| 設備投資 | 3年度は前年度を上回る見込み | 3年度は前年度を上回る見込み | → |
| 企業収益 | 3年度は増益見込み | 3年度は増益見込み | → |
| 企業の景況感 | 現状判断は、「上昇」超に転じている | 現状判断は、「下降」超に転じている | ↘ |
| 住宅建設 | 前年を上回っている | 前年を下回っている | ↘ |
| 公共事業 | 前年を上回っている | 前年を上回っている | → |
| 生産活動 | 弱含んでいる | 一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある | ↗ |

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果等もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売額は、不要不急の買い物を控える動きから衣料品などは低調となっているものの、巣ごもり需要などから引き続き食料品は堅調な動きとなっていることから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、住宅街周辺を中心に動きがみられるほか、新規出店効果などから、前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を下回っている。新車販売台数、中古車販売台数ともに、前年を下回っている。家電販売額は、前年を上回っている。このように、個人消費は、感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 食料品は、巣ごもり需要は継続しており堅調に推移している。来店回数を減らし、まとめ買いをする動きは継続。衣料品は外出控えから引き続き悪い。(百貨店・スーパー)
- 当初見込みでは、1月、2月は、昨年の緊急事態宣言時と同じくらい落ち込み、前年を下回ると考えていたが、結果として前年を上回った。マスク等で感染予防をしながら消費活動は行われているといった印象。(百貨店・スーパー)
- 住宅立地では、引き続き安定しており前年を上回る店舗もある。観光立地では、北部はプロ野球キャンプ効果や、観光客が増加しているのか土日の売上げは伸びた。オフィス立地は、リモートワークが継続しているのかそれほど伸びていない。(コンビニエンスストア)
- 1-3月期は状況として変わっていない。オミクロン株による感染急拡大はあったが大きな影響はなかった。マスク等の衛生用品が淡々と売れ、医薬品、化粧品が伸び悩んでいる状況が続いている。(ドラッグストア)
- 10月以降、少しずつ納車ができるようになっていたが、1月以降は、引き続き半導体不足に加え、新型コロナウイルスの影響から国内工場においても生産が止まるなど、納車遅れが続いており景況感は悪くなる。(自動車販売店)
- 当初はオミクロン株の感染急拡大により大きく落ち込むかと思われたが、想定よりは落ちなかった。来店客数は1-3月で前年比80%程度。冷蔵庫、洗濯機が比較的売れた。(家電量販店)

■ 観光 「感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる」

入域観光客数は、国内客は、前年を上回っている。感染症の急拡大の影響により、旅行予約のキャンセルの拡大がみられていたが、まん延防止等重点措置の解除後は、旅行需要の持ち直しの動きがみられる。外国客は、引き続きゼロとなっている。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように、観光は感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる。

- 10-12月期は回復傾向にあったが、オミクロン株の急拡大により、1月はキャンセルで急落した。2月が最も影響が大きい。3月は回復傾向にあるがコロナ前の6割程度と苦しい状況である。(他運輸)
- 1月に沖縄のまん延防止等重点措置が適用されてから、2月までは多くのキャンセルが発生し、厳しい状況であったが、沖縄のまん延防止等重点措置が解除された翌週あたりから予約が入り始めている。3月は特にカップルの予約が増えており、企業の団体客も戻ってきている。(旅行)
- オミクロン株の急拡大の影響で、1月・2月は底辺の状況であったが、沖縄のまん延防止等重点措置の解除が決まった2/19以降、先の予約が入り始め、3月に入ってから予約は急激に伸びている。(宿泊)
- 正月は満室であったが、コロナの再流行により、1月はキャンセルが多く発生した。2月は、プロ野球キャンプの関係者、3月は大学生の卒業旅行や出張者の利用等により、好調である。(宿泊)
- 1月・2月は予定していた修学旅行が全てキャンセルになるなど散々であったが、沖縄のまん延防止等重点措置の解除により、県民の利用から始まり、3月の三連休以降は主に県外観光客の利用により稼働率は回復傾向にあり、明らかに流れが変わっている。(宿泊)
- 4月以降については、しばらくは個人客中心とみているが、修学旅行の予定も入っているため、コロナの再拡大がなければ、国内客については、例年近くの水準に戻る見込みである。ただ、これまで入場者数の4割を占めていたインバウンドが剥落しており、コロナ前までの水準に戻すことは難しい。(娯楽)
- 予約が間際化しており、4月の予約はまだ弱い。3月後半からコロナ感染者が再度増えつつあるものの、キャンセルはほとんどなく、新規の予約が増えている状況である。Go Toトラベル待ちは少なくなってきている。制限がかかっていない限り、With コロナで動けるときに動く層が旅行に来る傾向にある。(旅行)

■ **雇用情勢** 「感染症の影響により、弱い動きとなっている」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇しているものの、低水準で推移している。新規求人数は、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数（新規求職申込件数）は、前年を上回っている。

このように、雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっている。

- 有効求人倍率（季節調整値）は0.86倍となり、前月から0.01ポイント上昇しており、24ヶ月連続で全国最下位である。新規求人倍率（季節調整値）は1.44倍となり、前月から横ばいとなっている。新規求人数（季節調整値）は、宿泊・飲食サービス業を中心に増加している。宿泊業は、3月の予約状況が好調であったことから、繁忙対策として、リゾートホテルが中心だが、中小規模のホテルでも、パートタイム求人の増加がみられた。また、新規開業ホテルの求人も出されている。（公的機関）
- 求人数は、緊急事態宣言が解除された10月以降横ばいで推移し、1月以降はオミクロン株急拡大によるまん延防止措置の影響を受けつつも、行動制限慣れもあるのか、主に飲食業で回復傾向にあり、求人数は微増微増の状況である。（求人誌出版）
- 加盟店の過不足感は以前に比べ落ち着いている。ただ、コロナが落ち着いた頃に、ホテル・飲食店の求人が出始めると影響が出てくる見込み。（コンビニエンスストア）
- 雇用調整助成金を活用して、従業員を休業させながら、雇用を維持している。稼働が低い平日は5割休ませている。6月末まで利用予定。（宿泊）
- 3月まで雇用調整助成金を活用し、出勤率を抑えていたが、4月からは雇用調整助成金は利用せずフル出勤。（旅行）

■ **設備投資** 「3年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 製造業では、その他製造などで増加することから、全体では前年度を28.9%上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信、建設などで減少するものの、電気・ガス・水道、サービスなどで増加することから、全体では前年度を11.2%上回る見込みとなっている。

- 今年度は新規で工場建設を予定しているため、増加見込みである。（他製造）
- 今年度は通信設備投資及び施設建設費の支払いを予定しているものの、減少見込みである。（情報通信）

■ **企業収益** 「3年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 製造業では、食料品、機械器具などで減益となることから、全体では▲35.8%の減益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、情報通信で増益となることなどから、全体では11.7%の増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「現状判断は、「下降」超に転じている」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「下降」超に転じている。先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家で前年を上回っているものの、貸家、分譲で前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

■ **公共事業** 「前年を上回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（3年度累計）は、前年を上回っている。

■ **生産活動** 「一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある」

- 化学石油製品及び窯業土石が低下しているなど弱さがみられるものの、金属製品及び食料品が上昇していることなどから、生産活動は持ち直しつつある。